

全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」事業について

「全国美術館収蔵品サーチ『SHŪZŌ』」は、独立行政法人国立美術館国立アートリサーチセンター（NCAR）が日本全国の美術館等施設のご協力のもと各館収蔵の美術作品情報を集約し公開するデータベースです。ウェブサイト「アートプラットフォームジャパン」上で閲覧利用できます。

SHŪZŌは、2021（令和3）年3月、美術館の収蔵作品活用と国内外における日本のアートの研究振興に資するため、文化庁アートプラットフォーム事業（2018～2022年度）により構築されました。その後、独立行政法人国立美術館国立アートリサーチセンターが継承し、今日に至っています。

1. 何を収録しているか（美術作品の収録基準）

- ・美術館・博物館等、日本全国の公開施設の収蔵品（パブリック・コレクション）を対象とします（寄託作品を含む場合もある）。
- ・現在は、1801年以降に制作された美術作品、あるいはアートプラットフォームジャパン「日本アーティスト事典（DAJ）」に登録された作家による作品を収録範囲としています。ただし明らかに1801年以降の作品であっても、作家名や制作年が不特定あるいは空欄の作品データについては、データ処理の都合上収録されないことがあります。

2. 作品情報の収集

- ・収録データは、本事業の趣旨にご賛同いただいた美術館等施設から提供された収蔵品目録（デジタルまたは紙媒体）やデジタル・データ等（以下、「提供情報」）に基づいています。未公開の業務用データや、オンラインではアクセスできなかった紙媒体の収蔵品目録・年報等も受け入れています。ただし、前項の美術作品の収録基準により、各機関からの提供情報すべてが公開されるとは限りません。
- ・各館のご負担をできるだけ軽減するため、データ整備（データ・クレンジング）や項目割り当て（マッピング）等、**必要なデータ処理作業はNCARが実施**します。
- ・2026年4月現在、データ収録数は223館47万3千件（うち画像あり作品数は8万7千件）です。

3. データ収録・公開方針

- ・提供情報の原表記を尊重し、原則として表記統一は行いません。ただし、明らかな誤字・脱字の修正や、情報（文化財指定情報等）の補足のため、軽微な追加・変更を行うことがあります。
- ・調査研究の進展により、情報は常に更新が必要ですが、SHŪZŌの収録データすべてを最新状態に保つのは容易なことではありません。データの信頼性・妥当性の担保のため、各作品データに出典および最終更新日を明記します。

- ・検索の利便性を高めるため、検索タグとして、作品データにアーティスト名（ただし「日本アーティスト事典」に収録されているアーティストに限る）および美術館名の統制語彙を付与します。
- ・データは日英二か国語で収録します。提供情報に英語表記がない場合の代替手段として、機械翻訳の機能を実装しています。
- ・本法人はSHŪZŌでの画像公開に関し、「原作品展示者及びこれに準ずる者」（著作権法第47条3項、同施行令第7条の2第1項）として文化庁長官指定を受けており、著作権保護期間内の作品についても、同法のもと、必要と認められる限度（サムネイル・サイズ）において画像公開が可能となっています。

参考：[著作権法第47条第3項の原作品展示者に準ずる者の指定について](#)

4. 外部連携

2026年度から、SHŪZŌにご提供いただいている各館の収蔵品に関する情報を、国の分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」に提供することを予定しております。連携開始時期は2027年2月頃を予定しています。技術的な詳細は下記資料をご覧ください。

資料：[データの可視化および利活用推進に係る外部連携について](#)

5. 研究資料委員会

国立アトリサーチセンター情報資源グループに設置された研究資料委員会が運用方針等を定めています。

研究資料委員会委員（五十音順・敬称略／令和8年4月時点）

江上 ゆか（兵庫県立美術館）
大向 一輝（東京大学大学院人文社会系研究科）
川口 雅子（国立アトリサーチセンター）
副田 一穂（愛知県美術館）
成相 肇（東京国立近代美術館） ※主査

6. 担当、問い合わせ先

国立アトリサーチセンター情報資源グループ

川口雅子（リーダー）、溝上、ハリントン角皆

<SHŪZŌ 担当窓口>

手銭

メール：shuzo@artmuseums.go.jp

電話：03-6910-0624（情報資源グループ代表）

住所：〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア 2階

以 上

全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」 ロードマップ

2020年度
(R2)

フェーズ
1

文化庁アートプラットフォーム事業にてデータベース構築

文化庁のアートプラットフォーム事業の一環としてSHŪZŌを構築。2021年3月、ウェブサイト「アートプラットフォームジャパン」(APJ)上でベータ版公開開始。国際発信を目的に、英語でのデータアクセス向上を目指す。収録対象は、**日本の近現代美術作品**に限定。

成果

(2023年3月末)



美術館等施設

(累計)
165館



収蔵品

(累計)
約16万件



画像

(累計)
約10%

2022年度
(R4)

フェーズ
2

国立アートリサーチセンターへのデータベースの継承、持続的運用の確立

2022年度 (R4)

SHŪZŌ事業が文化庁アートプラットフォーム事業から独立行政法人国立美術館国立アートリサーチセンター(仮称)設置準備室情報資料グループに継承される。

2023年度 (R5)

APJのウェブサイト全体をリサーチポータルサイトとしてリニューアル。2023年9月26日、本公開開始。

2024年度 (R6)

2024年12月10日、収録範囲を**国内外の近現代美術作品**に拡大。

2025年度 (R7)

安定的な情報更新体制の確立。美術館に収蔵される、近代以降の国宝・重要文化財へのデータアクセス実現。

成果

(2026年3月末)



美術館等施設

(累計)
223館



収蔵品

(累計)
約47万件



画像

(累計)
約19%

2026年度
(R8)

フェーズ
3

恒常的な運用へ、協力美術館等施設の拡充、作品画像のさらなる充実

近現代美術作品を所蔵する美術館等施設(推定**1244館***)のうち約25%、**300館**の収蔵品情報公開を目標とする。恒常的なデータ拡充を可能にする運用体制の確立を目指す。

*令和3年度文部科学省社会教育調査「博物館の資料の状況」による。「近代美術資料」を所蔵する博物館・美術館数の合計。

目標



美術館等施設

(累計)
300館



収蔵品

(累計)
約70万件



画像

(累計)
約70~80%

2030年度
(R12)

